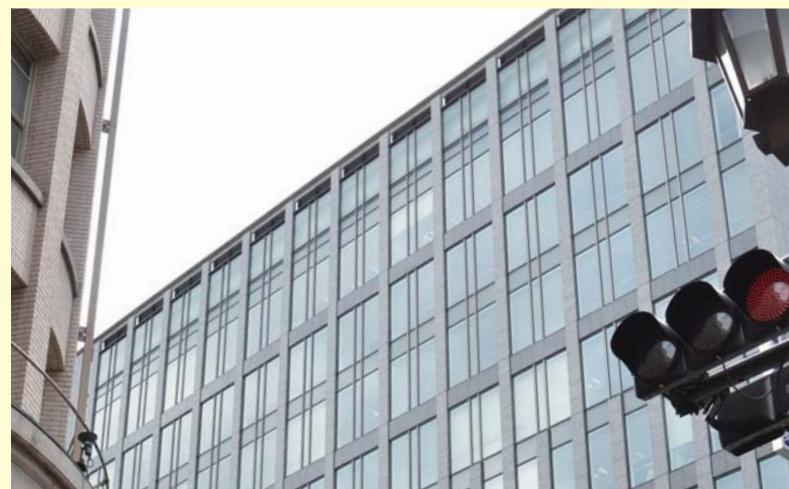
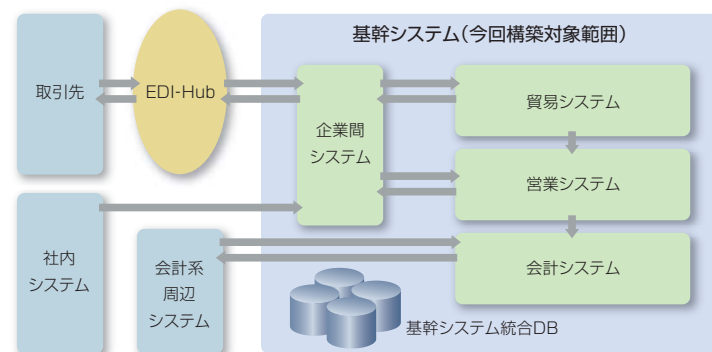


**三菱商事パッケージング株式会社**

- 代表取締役社長執行役員／岡野 公夫
  - 本店／東京都中央区日本橋二丁目3番10号
  - 支店／大阪・名古屋・福岡
  - 設立／1976年
- http://www.mcpackaging.co.jp/

パッケージングの専門商社で、コンビニエンスストア向け弁当用容器をはじめ、食品・飲料メーカーならびに中食・ファストフード向け容器や包装資材、段ボール製品などを総合的に取り扱っている。

システム概念図



著作権の関係上、表示できません。

Best Solution for Your Life.



三菱商事パッケージング株式会社  
Mitsubishi Shoji Packaging Corporation

長期間の安定稼働を実現するため  
基幹システムの  
オープン化を実施

**三菱商事パッケージング株式会社**

長期間の安定稼働を実現するため、基幹システムのオープン化を実施

パッケージ業界大手の同社は、長年利用してきた基幹システムを、ビジネスの拡大や環境の変化などに柔軟に対応できるシステム化を目的に、現行機能を踏襲しながら、IT全般統制対応などを加え、最新のオープン環境で再構築することを決定した。これを受けて、インテックは、新しい基盤上に独自のフレームワークを活用し、標準化・部品化を図ることなどを提示し、開発の生産性、品質の向上を実現するとともに、長期にわたる安定稼働および運用を可能にした。



〈写真右から〉  
取締役執行役員  
情報システム部管掌  
**竹田 宏之氏**  
顧問  
**田中 康二氏**  
情報システム部長  
**小金 浩一氏**

約2年半の長期にわたるプロジェクトでしたが、しっかりとしたプロジェクト管理のもとで、メンバー各自がフルに能力を発揮して頂いたおかげで、予定通りに稼働開始させることができました。また、システム切替え直前には東日本大震災がありました。メンバーが一丸となり乗り切ることができました。本プロジェクトに参加されたメンバーの皆さんには大いに感謝しております。

独自フレームワークを活用

インテックは、将来の環境変化への対応、システムの移植性、汎用性、保守性、ユーザインタフェース（操作性）の向上を考慮した結果、新システムのアプリケーション基盤は、「NET Framework + SmartClient（開発言語：C#）」が最適であると提案を行いました。また、インテックでは独自のフレームワーク「StanceFrame」を開発しており、それを使用しアプリケーション開発を標準化することで、生産性・品質の向上を実現し、長期にわたる安定稼働を可能にすることが決め手となりました。

従来から一般的に活用されている「フレームワーク」を一種の「ツール」として活用するだけでは、品質・生産性の向上効果は十分に発揮されません。

「[StanceFrame]はフレームワークを使用したプロジェクトの開発者から改善要望を取り入れ、フレームワーク本体のみならず、付属するガイドラインやテンプレート、サンプルプログラムにも追加・改訂を重ねていきました。この事が経験やノウハウを「資産」として蓄積し、展開することを可能としていました。

オフショア活用でコスト削減

今回、基本設計フェーズからシステムテストフェーズでインテックの

子会社である、インテック武漢、インテック武漢上海分公司（当時）を利用したオフショア開発を活用しました。オフショア開発は、一般的にはコスト抑制になりますが、品質面の向上が課題とされてきました。そこで、過去の経験を踏まえ、オフショア側の主要な設計メンバーを東京での基本設計フェーズから参画させ、アプリ基盤構築・マザープログラム開発を通じて、業務やシステムの全体像および技術を習得させることにより、詳細設計時の品質向上を行うことができました。また、プロジェクトメンバーがオフショア側に1名常駐し、プロジェクト本体との橋渡しはもちろん、オフショア側の開発計画立案、プロジェクト運営などに積極的に関与して、オフショアとの信頼関係を築きました。

新旧比較テストによる品質確認

新システムの品質を確認するために、単体テスト以降のすべてのテストフェーズで新旧比較テストを実施しました。新システムと現行システムのデータ環境を揃えた上で、同一のインプットを行い、同一のアウトプットを出力し、画面の挙動（エラーチェックなど）や帳票出力内容の同一性を確認しました。その際、すべてのテストケースで新旧比較テストを行うと、負荷が倍以上となるため、機能

の難易度・重要性、テストの難易度、不具合の傾向などに鑑みながら、実施するテストケースを絞り込みました。新旧比較テストを行うことで、現行システムのテスト環境構築や技術者調達などの工数増とはなりませんが、補って余りある効率的な品質確保ができました。

ノートラブルで本番移行

今回のシステム開発は、2008年8月の要件定義開始から2011年4月のリリースまで約2年半のスケジュールでプロジェクトを進めました。開発メンバーが同社情報システム部と綿密な打ち合わせを繰り返し、ユーザテストのシナリオ作成から参画したことにより、十分なユーザテストおよび教育を行うことができました。

これに加え、リリース前に移行リハーサルを複数回実施し、問題点を洗い出したうえで、万全の態勢で臨んだことにより、通常業務への影響もなくスムーズなシステム移行を可能にしました。

安定稼働の次のステップ

システムのリリースから現在に至るまで大きなトラブルもなく、安定稼働しています。今後は改善要望の取り込みなど、さらにシステムの機能を向上させていく予定です。